

## 研究会

### むらを住み継ぐカタチ#08：日本一ちいさなまちでの住み継がれ方

— 山梨県早川町における山村留学と地域外支援活動、および上流研の戦略的な取り組み —

人口減少が進む地域では、移住者の受け入れに取り組む自治体が多い。しかしながら、その受け入れ制度は、表面的施策のため、地域側が求める移住者が来ない、あるいは移住者が定着しないなどの問題を抱える地域は多い。

早川の山村留学制度は全国屈指の成功事例として評価が高い。また、人口4人となった集落に、地域外支援者を受け入れ、結果として移住者の受け入れに繋がり人口が倍増した地域がある。さらには地域づくりのさまざまな施策を企画・提案・実行し、それぞれを結びつけ、行政や住民を支える上流研の取り組みは、戦略的かつ独創的である。こうした一連の早川町の取り組みに着目し、①移住者・行政・地域住民の連携手法、②集落維持活動に対する地域外協力者、他出者受け入れの是非、③中間支援組織のあり方、の3点を中心に、人口減少地域の「住み継がれ方」を議論する。

---

・ **主催** : 日本建築学会 農村計画委員会 集落居住小委員会

・ **会場** : 赤沢宿「清水屋」(山梨県南巨摩郡早川町赤沢193)

・ **日時** : 2018年3月21日(水・祝) 9:30~12:00

・ **プログラム**

9:30 開会挨拶

9:35 研究会趣旨説明 遊佐敏彦(奈良県立医科大学)

9:40 事例紹介 各地の住み継がれるカタチ: 佐久間康富(和歌山大学)

9:50 話題提供

・ 望月一彦氏 早川町教育委員会「早川町における山村留学の取組と保護者活動」

・ 望月信保氏 早川町古屋集落区長「地域外支援者とともにやってきた集落維持活動」

・ 上原祐貴氏 日本上流文化圏研究所研究員「上流研の20年間の取り組み」

10:50 ディスカッション

11:50 まとめ

12:00 閉会

・ **定員** : 30名(申込み先着順)

・ **参加費** : 会員1,000円、会員外1,500円、学生500円 \*当日会場にてお支払いください。

・ **申込み・問合せ** : 遊佐敏彦(奈良県立医科大学) [yusa@t-yusa.jp](mailto:yusa@t-yusa.jp)

---